

## 広報広聴委員会における龍谷大学土山教授との意見交換の振り返りについて

令和2年7月30日に開催した龍谷大学土山教授との意見交換について、8月11日の広報広聴委員会で振り返りを行ったところ、タウンミーティングの位置づけについて以下のとおり意見が交わされたため、今後の広報広聴委員会での議論の参考とする。

### 1 概要

- (1) タウンミーティングの進め方や参加者からの意見の取り方を検討する前提として、議員個人ではなく議会としてタウンミーティングに取り組む意味を検討すべきである。

- ・ 議員の集合体である議会がタウンミーティングに取り組むということは、有権者に近づいていくということでは。
- ・ 議員個人だけでなく、議会としてタウンミーティングに取り組む重要性を実感した。

- (2) 議会としてタウンミーティングに取り組む意義は、住民福祉の向上を図ることである。

- ・ 飯田市議会がこれまでに取り組んできた議会改革は「制度改革」として、先進的な取り組みと言える。これからは、住民福祉の向上にどのようにつなげていくか、というステージに立つべきである。
- ・ 議会としてタウンミーティングに取り組むことで、行政の当たり前が、市民の当たり前ではないことを気づく機会となる。
- ・ 議会報告会は動員型といえるに対して、タウンミーティングは多数決から漏れた声なき声を拾う「市民益の追求」ともいえるのではないか。
- ・ 議会がどう動いているか、を住民に示していくことが大切である。

- (3) タウンミーティングで得られた内容を基に、議会として議決を行うことで、市民からの意見を政策に反映することができる。

- ・ 議会報告会を開催する中で、市民や地域から意見、要望等を聴いた議会が、意見、要望等を出した市民や地域に対してどのように応えてくれたかを問う声が寄せられている。
- ・ 議員の集合体である議会は、議決を行うことで、多種多様性に富む議員が市民や地域からの声を聴いて政策に反映し、市民や地域からの声に応えることができる。

## 2 個別の意見（発言順）

永井 一英 委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ オンライン会議により意見交換を行ったことで、顔と顔を合わせて意見交換を行う場合と比較して話がかみ合わない場面が見られた。</li><li>・ 終始「来ていただくためには」という視点で指摘があったため、議会報告会とタウンミーティングの違いを事前に土山先生によく伝えておくべきだった。</li><li>・ プロジェクトは終了し、土山教授からの問題提起がなされ、今回を機にようやくスタートラインに着いた。</li><li>・ 飯田市議会のタウンミーティングをどうするか、煮詰める必要がある。</li><li>・ 行政が行う制度は、地域、時代、置かれている状況により千差万別であり、制度の修正、問題意識をぶつけることが議員として重要。</li><li>・ 議会報告会は、初めは議員が地域に来てくれたことで市民が喜んだが、回数を重ねることで議会は何をしてくれたんだという辛辣な意見が出るようになってきた。</li><li>・ 聴くことは返す（かたちにできる、政策を変更するなど）ということとイコールであるが、一人ではできないことには限界がある。</li><li>・ 議会として多種多様性をもつ人々が組んで、市民の声を聴き、応えることは飯田市議会にしかできない。</li><li>・ 市民がアンケートで身近に話をする機会を望み、議会に来てほしいという声があることは非常にありがたい。</li></ul>
古川 仁 委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 議会サイドのみの考え方だけではなく、参加する市民の側に立った考え方にも寄り添う必要があると感じた。</li><li>・ ターゲットとなる方の考え方をふまえた、開催する前の仕掛けの重要性を認識した。</li><li>・ 議会としてタウンミーティングを行う必要性を、広報広聴委員会で議論したほうがよいのでは。</li><li>・ 広報広聴委員会の意見交換会の前日に、社会文教委員会で「子育て」をテーマに会議を行ったところ、分科会で若い公民館主事の意見として地域で子育てを行う必要性が低いとの意見があった。</li><li>・ 議員として行ってきたことが、広く意見を聴くことで実際と異なることを実感した。</li><li>・ 議会全体として、広く意見を聴くことの必要性を感じている。</li></ul>
井坪 隆 委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 新しい市民とのコンタクトについて、良い意味で切り口が変えられた。</li><li>・ 無の状態から何かを生み出すとすれば、アイデア、企画力などが必要であり、議会の中にも限界があると感じた。</li><li>・ 土山教授のアイデア、企画力をお借りしてタウンミーティングを開くことも一考の余地がある。</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報広聴委員会で、議会としてタウンミーティングを行う必要性を議論することが、タウンミーティングの内容を深化させていく。</li> <li>・ 議員個人ではなく、議員の集合体として取り組むことが重要で、どうやったら来てくれるか、どうやったら意見を出してくれるかを組み立てて共有することが、自分たちが有権者に近づいていくことにつながる。</li> <li>・ 議会報告会とは異なるタウンミーティングの意味を探ることに意義がある。</li> <li>・ 自分達（行政）がこういうものだと思ってきたことが本当に正しいのかということ、現実には市民の声から気づく機会が生まれる。</li> <li>・ 個人が気づいても力にならないが、議会全体が気づけば力になる。</li> <li>・ タウンミーティングの中から、議員の集合体として議会がどのように動くかという視点が生まれる。</li> <li>・ 飯田市議会がこれまでに取り組んできた議会改革は「制度改革」として、先進的な取り組みと言える。</li> <li>・ 本当の議会改革は、住民福祉の向上に議会が親身に関われるかということ。</li> </ul>
<p>塚平 一成 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いかにか心に開いて、話してもらおうか、そのためのスキルの重要性を認識した。</li> <li>・ 動員に頼らずにどれくらい人が集まるかということを実験的に行うために開催してもよいのでは。</li> <li>・ 議会は、全市民益の追求をする組織である。</li> <li>・ 議会報告会は動員型でまちづくり委員会が主導するのに対して、タウンミーティングは、サイレントマジョリティ、声なき声をすくい上げることがポイントである。</li> <li>・ 参加者数が少なくてもタウンミーティングを開催する意義はある。</li> </ul>
<p>新井 信一郎 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議員は口の力は強いが、もう少し耳を傾けなければいけない必要性を認識する時間をいただいた。</li> <li>・ 大学で客観的に政治学の教鞭をとられている先生の言葉なので、大切に有効に活用させていただきたい。</li> <li>・ 市民の思いと議会の歩みのボタンのかけ違いをどうするかが、今後議会が行動すべきこと</li> <li>・ 広報広聴委員会が聴いたことを、常任委員会を通じて全議員に共有し、行政として市民益につなげていくフローが考えられる。</li> <li>・ さまざま意見の中から、多数決でもれた意見に対して議会として取り組む価値があるのではないか。</li> </ul>
<p>清水 優一郎 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議員個人の議員活動の中でも、普段広聴をする機会が少ない市民層の声を拾い、政策資源を得ようとする広聴の意義は重要。</li> <li>・ タウンミーティングの狙いの中に、議会としてタウンミーティングを</li> </ul>

	<p>行う意味も入れてもいいのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 興味のない方に来ていただくことは難易度が高い。</li> <li>・ 個人で企画していたタウンミーティング的なものを企画する中で、議員個人として又は議会としてタウンミーティングを行う意味を考えた。</li> <li>・ 普段広聴する機会が少ない若者、女性などをターゲットとして考えたが、「来るきっかけづくり」が難しかった。</li> <li>・ 1時間は議会に対する素朴な質問、残り1時間は懇親会を計画したところ、30人くらいは集めることができそうだという感触を得た。</li> <li>・ 議員個人ではなく、議員集団である議会としてタウンミーティングに取り組み、検討することが重要である。</li> </ul>
<p>福澤 克憲 副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議会報告会をどう融通するか、2年の政策サイクルをどう実現していくかをしっかり伝えた上で、プラスアルファでタウンミーティングを開催したい旨を示して議論できるとより良かった。</li> <li>・ 現在はタウンミーティングのパターンを出している段階であって、アクションをどのように起こしていくかというところまで至っていないことを伝えて話をしていけば、初めからかみ合った議論が行えた。</li> <li>・ ファーストコンタクトとして、つながりがある人、つながりがなくて1から関係をつくる人などのパターンをふまえながら、参加者のメリットを参加者の立場で考える必要性を感じた。</li> </ul>
<p>竹村 圭史 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Zoomを使ったオンライン会議では、あうんの呼吸がとれず意見交換がうまく進まない場面も見られ、た。</li> <li>・ 広聴の機能を高めていくためには、自分たちの思いだけではなく、参加する側の思いを引っ張り出すためには何をすべきかについては鋭い意見をいただいた。</li> <li>・ タウンミーティングにおいて聴くことの重要性を再認識した。</li> </ul>
<p>湯澤 啓次 議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報広聴委員会でまとめた報告書が、今まで自分たちの心に落ち切れていない部分があった。</li> <li>・ 住民福祉の向上のため、議会が現場に入ることによって市民と向き合う中でお互いに発展がある。</li> <li>・ 議会側がワクワク感をもって入っていかないと、市民が参加しない。</li> <li>・ 1回目2回目とチャレンジすることで、市議会の血や肉となっていく、方法論がクリアされていく。</li> <li>・ なぜタウンミーティングを開催するかを別紙としてまとめ、申し送ってはどうか。</li> </ul>